

令和元年度 荒尾市の決算

市の財政の決算状況をご報告します。
 財政課 63-1289

特集 荒尾市の決算

一般会計 収支の状況

一般会計決算額は、歳入が230億2,890万2千円(対前年度比7.8%増)、歳出が229億2,350万3千円(対前年度比9.2%増)で、差し引き1億539万9千円の黒字になりました。そのうち2,777万7千円は、令和2年度に繰り越して行う事業の費用として必要なので、実質的な収支では、7,762万2千円の黒字となりました。

また、積立基金(市の貯金)に2億8,682万1千円積み立て、5億6,840万円取り崩しました。その結果、令和元年度末の積立基金の合計は65億8,404万2千円になりました(出納整理期間を含む)。

歳入の決算状況

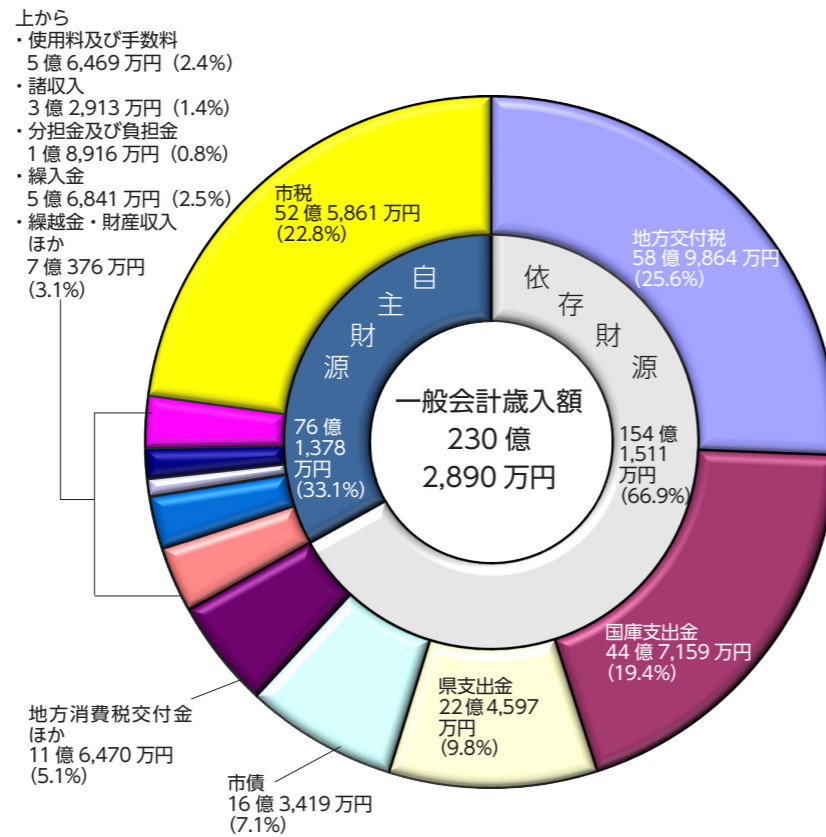
【歳入の決算状況】

歳入総額は、前年度と比べて16億7,099万3千円増加しています。

自主財源(市が自主的に収入できるお金)の合計は76億1,378万6千円で歳入の33.1%です。このうち市民税や固定資産税などの市税が52億5,861万2千円で歳入の22.8%を占めています。

一方、依存財源(国や県によって額が決められ、交付されたり割り当てられたりするお金)の合計は154億1,511万6千円で歳入の66.9%を占めています。このうち地方交付税が58億9,864万6千円で、歳入の25.6%です。

このように、本市の財政は自主財源よりも依存財源が占める割合が高いことから、地方交付税や国県補助金など、国や県の施策に大きな影響を受けます。そのため、行政活動の自主性と安定性に弱い面があるということも考慮した行政運営が必要になります。

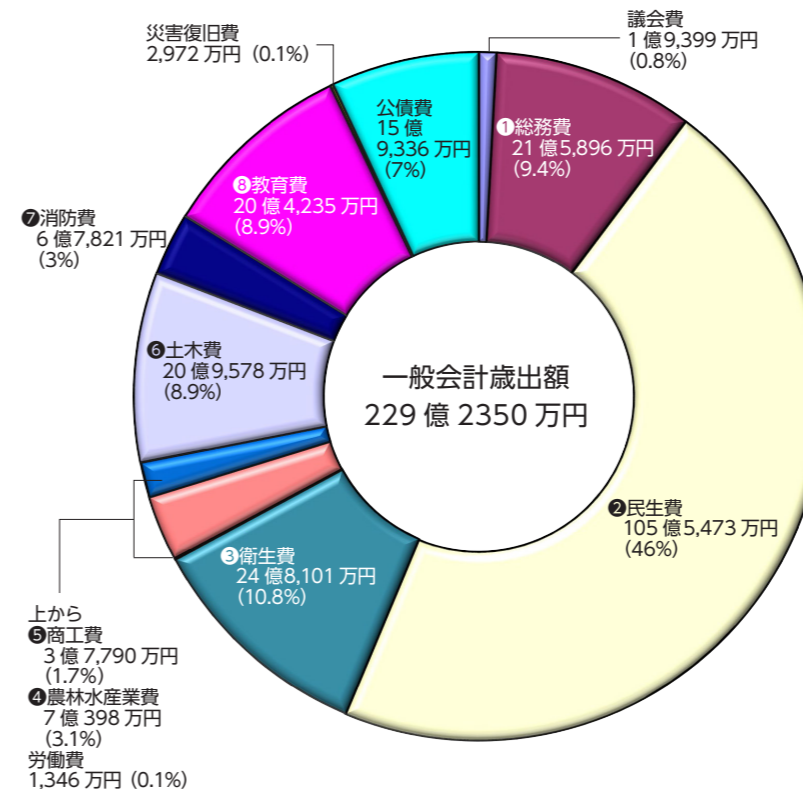


決算とは

4月～翌年3月を一区切りとして、市にどのくらいの収入があり、そのお金をどのように使ったのかをまとめた家計簿です。市では9月に開かれた市議会で詳しく審議された後、認定を受けました。

※グラフや表の金額は1万円未満を切り捨てて表記していますので、合計と合わない場合があります。また、割合は四捨五入していますので、合計が100%にならない場合があります。

歳出の決算状況



令和元年度は

主にこのような事業に使いました

歳出総額は、前年度と比べて19億3,933万9千円増加しています。

① 総務費	市役所での一般管理事務費	8億4,895万円
	基金への積立	2億466万円
	選挙のための経費	9,954万円
② 民生費	国民健康保険特別会計への繰出金	6億2,562万円
	介護保険特別会計への繰出金	7億9,429万円
	障害者自立支援給付費	16億4,465万円
	子ども医療費や児童扶養手当の支給など子育て支援の経費	9億430万円
	保育園・認定子ども園の運営経費	20億5,533万円
	児童手当の支給経費	8億6,231万円
	生活保護の経費	16億6,981万円
③ 衛生費	母子保健の経費	3,887万円
	がん検診など健康増進の経費	4,683万円
	ごみの収集・処理費用	9億3,372万円
④ 農林水産業費	農家育成や農業振興の経費	1,747万円
	農道や水路の整備などの推進経費	6,913万円
	林業振興の経費	4億7,136万円
⑤ 商工費	商工振興費用	1億2,013万円
	観光事業の経費	1億1,073万円
	企業の誘致促進費用	3,322万円
⑥ 土木費	道路の新設改良費用	4億3,969万円
	市営住宅の建設・維持管理経費	2億6,318万円
⑦ 消防費	有明広域消防組合への負担金	5億2,505万円
	防災や災害対策の経費	5,362万円
⑧ 教育費	教育委員会事務局の一般管理費	3億4,759万円
	小・中学校の施設改修・新築・増改築などの費用	7億7,945万円
	運動公園などの体育施設の管理運営費	1億2,259万円
	学校給食提供に関連する経費	4億4,053万円

令和元年度の実績 Pick Up



子ども科学館リニューアル事業費
6,083万円



放課後児童クラブ施設整備事業費
2,060万円



給食センター整備推進事業費
1億7,896万円



中学3年生ピロリ菌検査事業費
27万円



小・中学校 ICT 環境整備事業費
5,030万円



荒尾干潟水鳥・湿地センター誘客 PR 事業費
619万円



地区防災計画策定事業費
383万円



小規模保育所整備事業費
4,773万円